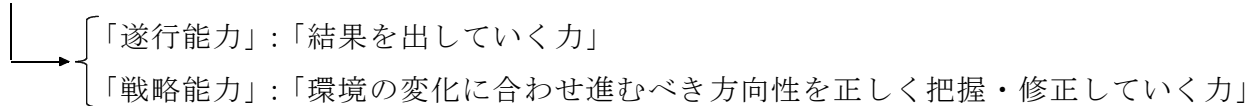


古田興司・平井孝志著「組織力を高める―最強の組織をどうつくるか」東洋経済新報社 2005年2月24日刊を読む

1. 組織の力(組織力):「組織が自らを変革し結果を出していく力」



2. 遂行能力

(1)「物事を着実に実行していく力」

「結果を出すうえで必ず必要となるオペレーション・エクセレンス(卓越した現場の実践力)」

(2)オペレーション(業務)の基本

「ある業務を反復していくこと」

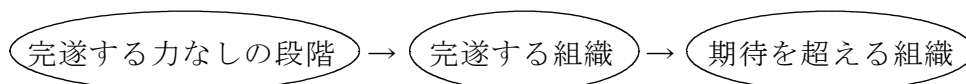
- ・生産・サービス・意思決定もオペレーション

(3)オペレーションは企業活動の本質

- ・実践的職人芸の上に成り立つ
- ・オペレーションの差が企業の優劣となって大きな差をもたらす

(4)遂行能力の2つの段階

- ①「完遂する」段階:着実にものごとをやり遂げる(完遂)
- ②「継続的に結果を出し続けていくために人が育ち、組織の至るところで期待を超える動きが沸き起こってくる段階」



3. 「戦略能力」:外部環境の変化に適応していく力

(1)「戦略」:「資源配分とその運用の方針」

↳ **ビジネスモデル**として理解すべき

- ①顧客ニーズや戦略(資源配分とその運用の方針)、事業推進のためのルールなどを含んだ「一連のロジックの連鎖」。
- ②優れたビジネスモデルは非常に「シンプル」で「整合性のとれたもの」。その方が、環境の変化に柔軟に対応できる力を企業にもたらす。

(2)戦略能力の3段階

- ゼロ段階** 「ビジネスモデル不在」
- 第1段階** 「シンプルで整合性のあるビジネスモデル」が構築できる段階
- 第2段階** 「そのビジネスモデルが、組織と顧客の共有する『場』を通して、能動的に進化し

ていくことのできる段階」

4. 組織力 = 「遂行能力」 × 「戦略能力」

(1) 遂行能力：最後までアウトソーシングできない卓越した現場の実践力

(2) 戦略能力：「シンプル」で「整合性」のとれたビジネスモデルを構築し、顧客と共有す『場』
を通して「組織」と「戦略」がともに進化していく「適応力」

(3) 「組織力」：「組織が自らを変革し結果を出していく力」

P1 ~ 12

<コメント>

コロナ禍の中でも「V字回復を図る」以外生き残りはないすべての企業への貴重なアドバイス。
「組織力」とは「遂行能力」と「戦略能力」の掛け算。がんばりたい。

2020年8月19日(水)